

19. プロラクチン(PRL)産生腺腫におけるドパミン作動薬抵抗性の機序について

島津智子<sup>1),2)</sup>、島津 章<sup>2)</sup>、山田正三<sup>3)</sup>、白井 健<sup>2)</sup>、井下尚子<sup>4)</sup>、塚田俊彦<sup>1)</sup>  
国立がん研究センター研究所<sup>1)</sup>、国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター<sup>2)</sup>、  
虎の門病院 間脳下垂体外科<sup>3)</sup>、虎の門病院 病理部<sup>4)</sup>

20. 間脳下垂体疾患データベースによる長期予後調査

横山徹爾<sup>1)</sup>、置村康彦<sup>2)</sup>、千原和夫<sup>3)</sup>  
国立保健医療科学院 生涯健康研究部<sup>1)</sup>、神戸女子大学<sup>2)</sup>、兵庫県立加古川医療センター<sup>3)</sup>

**重点課題 (14:30～15:00)**

**座長 大磯ユタカ**

21. リンパ球性漏斗下垂体後葉炎の診断マーカーとしての抗76kD蛋白抗体の有用性の検証と、  
ES-AVP細胞培養系を用いた76kD蛋白のAVP分泌への関与の解析

清田篤志<sup>1)</sup>、梶村益久<sup>1)</sup>、岩間信太郎<sup>1)</sup>、福岡一貴<sup>1)</sup>、高木博史<sup>1)</sup>、長崎 弘<sup>2)</sup>、  
有馬 寛<sup>1)</sup>、大磯ユタカ<sup>1)</sup>  
名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学<sup>1)</sup>、藤田保健衛生大学医学部 生  
理学講座 I <sup>2)</sup>

22. 機能性下垂体腺腫の腫瘍発生原因と腫瘍増殖に関与する因子の研究

高野幸路<sup>1)</sup>、寺本 明<sup>2)</sup>、有田和徳<sup>3)</sup>  
東京大学医学部 腎臓・内分泌内科<sup>1)</sup>、日本医科大学 脳神経外科<sup>2)</sup>、鹿児島大学大学院  
医歯学総合研究科 脳神経外科学<sup>3)</sup>

23. Cushing病に対する新規薬物療法の開発

菅原 明<sup>1)</sup>、岩崎泰正<sup>2)</sup>、沖 隆<sup>3)</sup>、須田俊宏<sup>4)</sup>  
東北大学大学院医学系研究科 病態検査学分野<sup>1)</sup>、高知大学 臨床医学部門<sup>2)</sup>、浜松医科  
大学 第2内科<sup>3)</sup>、弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学<sup>4)</sup>

**手引き／認定基準の改定について (15:00～15:55)**

**座長 大磯ユタカ**

**閉会の辞 (15:55～16:00)**

**大磯ユタカ**

厚生労働省難治性疾患克服研究事業  
間脳下垂体機能障害に関する調査研究班  
平成24年度班会議

プログラム・抄録

日時：平成25年1月11日(金) 10:00～16:00  
場所：TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター ホール5A  
住所：〒104-0031 東京都中央区京橋2-3-19 TKP八重洲ビル5F  
TEL：03-6202-6100

交通：JR線「東京駅」八重洲南口より徒歩4分  
銀座線「京橋駅」より徒歩2分  
浅草線「宝町駅」より徒歩4分  
JR京葉線「東京駅」京橋口(1番出口)より徒歩5分

講演時間は各演題10分(うち口演7分、質疑3分)です。

厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班  
班長 大磯ユタカ

開会の辞 (10:00～10:05)

大磯ユタカ

厚生労働省健康局疾患対策課 中尾 武史 課長補佐 挨拶 (10:05～10:10)

患者会代表 挨拶 (10:10～10:20)

- ・下垂体患者の会 はむろおとや 代表理事  
「難病対策改革の基本理念と闘病生活のはざままで」
- ・中枢性尿崩症 (CDI) の会 大木 里美 副代表  
「中枢性尿崩症患者が抱える悩みとは」

バゾプレシン分泌異常症 (10:20～10:50)

座長 石川 三衛

1. 尿崩症を伴わない視床下部障害型下垂体前葉機能低下症の2症例

浅野智子、石川三衛

自治医科大学付属さいたま医療センター 内分泌代謝科

2. 小胞体内の凝集体形成はバゾプレシンニューロンを細胞死から保護する

— 家族性中枢性モデルマウスを用いた検討 —

有馬 寛、萩原大輔、東 慶成、梶村益久、大磯ユタカ

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

3. リンパ球性漏斗下垂体後葉炎の診断検査薬の開発

梶村益久<sup>1)</sup>、岩間信太郎<sup>2)</sup>、清田篤志<sup>1)</sup>、竹内誠治<sup>1)</sup>、泉田久和<sup>1)</sup>、落合啓史<sup>1)</sup>、  
藤沢治樹<sup>1)</sup>、高木博史<sup>1)</sup>、福岡一貴<sup>1)</sup>、須賀英隆<sup>1)</sup>、長崎 弘<sup>3)</sup>、有馬 寛<sup>1)</sup>、  
大磯ユタカ<sup>1)</sup>

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学<sup>1)</sup>、ジョンズ・ホプキンス大学  
病理部<sup>2)</sup>、藤田保健衛生大学 生理学 I<sup>3)</sup>

ACTH分泌異常症 I (11:00～12:00)

座長 岩崎 泰正

4. 原発性・続発性副腎機能不全症患者におけるグルココルチコイド補充指標としてのCGMの有用性に関する検討

柳瀬敏彦、高田彩子、福田高士、野見山崇、明比祐子

福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科

5. 超高感度測定法を用いた異所性ACTH産生症候群 (EAS) の簡易診断

片上秀喜

帝京大学ちば総合医療センター 内科・臨床研究部

6. Cushing病患者におけるD2受容体とBromocriptineの効果について

沖 隆、飯野和美  
浜松医科大学 第2内科

7. レチノイドX受容体(RXR)アゴニストHX630のPomc遺伝子転写抑制機構の解明

箱田明子<sup>1)</sup>、宇留野晃<sup>2)</sup>、清水恭子<sup>1)</sup>、小暮直敬<sup>1)</sup>、皆川敬治<sup>1)</sup>、伊藤貴子<sup>1)</sup>、吉川雄朗<sup>3)</sup>、藤原幾磨<sup>4)</sup>、松田 謙<sup>5)</sup>、佐藤郁子<sup>1)</sup>、壺岐裕子<sup>1)</sup>、工藤正孝<sup>5)</sup>、影近弘之<sup>6)</sup>、岩崎泰正<sup>7)</sup>、伊藤貞嘉<sup>5)</sup>、菅原 明<sup>1)</sup>  
東北大学大学院医学系研究科分子内分泌学分野<sup>1)</sup>、同 医化学分野<sup>2)</sup>、同 機能薬理学分野<sup>3)</sup>、同 小児病態学分野<sup>4)</sup>、同 腎・高血圧・内分泌学分野<sup>5)</sup>、東京医科歯科大学 生体材料工学研究所<sup>6)</sup>、高知大学 臨床医学部門<sup>7)</sup>

8. 下垂体ACTH産生腺腫細胞における転写因子 Hypoxia-responsible factor 1およびNFATの役割

岩崎泰正、西山 充、田口崇文、次田 誠  
高知大学臨床医学部門

9. メラノコルチン2受容体欠損マウスにおける下垂体遺伝子発現の検討

亀田 啓<sup>1)</sup>、清水 力<sup>1,2)</sup>  
北海道大学大学院医学研究科内科学講座免疫・代謝内科学<sup>1)</sup>、北海道大学病院検査・輸血部<sup>2)</sup>

昼休み (12:00～13:00)

班連絡会議(研究分担者のみ) (12:00～13:00) TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター  
カンファレンスルーム5A

TSH・GH分泌異常症 I (13:00～13:40)

座長 肥塚 直美

10. TSH分泌異常症例の治療経過

巽 圭太、高坂和芳  
宝塚大学看護学部、大阪大学大学院医学系研究科 臨床検査診断学

11. TRHの下垂体NR4A1(Nur77)を介するTSHβ遺伝子制御機構

山田正信、森 昌朋  
群馬大学医学部病態制御内科学

## 12. GH測定の標準化および測定値の補正について

島津 章<sup>1),2)</sup>、横谷 進<sup>2)</sup>、田中敏章<sup>2)</sup>、肥塚直美<sup>2)</sup>、巽 圭太<sup>2)</sup>、立花克彦<sup>2)</sup>、堀川玲子<sup>2)</sup>、勝又規行<sup>2)</sup>

国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター<sup>1)</sup>、公益財団法人成長科学協会<sup>2)</sup>

## 13. 日本人のインスリン様成長因子-I (IGF-I) 濃度の基準範囲 — 新生児期から老齢期まで —

島津 章<sup>1),2)</sup>、磯島 豪<sup>2)</sup>、横谷 進<sup>2)</sup>、千原和夫<sup>2)</sup>、田中敏章<sup>2)</sup>、肥塚直美<sup>2)</sup>、寺本 明<sup>2)</sup>、巽 圭太<sup>2)</sup>、立花克彦<sup>2)</sup>、勝又規行<sup>2)</sup>、堀川玲子<sup>2)</sup>

国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター<sup>1)</sup>、公益財団法人成長科学協会<sup>2)</sup>

## GH分泌異常症 II (13:40~14:30)

座長 島津 章

### 14. 先端巨大症に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術の治療成績 — 本邦と欧米における新しい治療基準との比較 —

田原重志<sup>1)</sup>、石井雄道<sup>1)</sup>、服部裕次郎<sup>1)</sup>、井野元智恵<sup>2)</sup>、長村義之<sup>3)</sup>、寺本 明<sup>4)</sup>

日本医科大学脳神経外科<sup>1)</sup>、東海大学医学部基盤診療学系病理診断学<sup>2)</sup>、国際医療福祉大学病理診断センター<sup>3)</sup>、東京労災病院<sup>4)</sup>

### 15. 先端巨大症術後のQOLおよび骨関節症に関する検討

山口秀樹、中里雅光

宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野

### 16. 先端巨大症の治療経過とその予後 — 2005年以降の当科での成績 —

福田いずみ、肥塚直美、村岡東子、市原淳弘

東京女子医科大学第二内科

### 17. 成人GH分泌不全症におけるNAFLD/NASHの意義とその発症機序

高橋 裕、西沢 衡、福岡秀規、井口元三

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病内分泌内科学

### 18. 中枢性思春期早発症及び成長ホルモン分泌不全性低身長症 診断と治療の手引き H24年度改訂に向けて

横谷 進、堀川玲子

国立成育医療研究センター 生体防御系内科部、同 内分泌代謝科

19. エストロゲン誘発ラットプロラクチノーマに認められた多ホルモン産生増殖性病変の病理組織学的検討

竹腰 進<sup>1)</sup>、井野元智恵<sup>2)</sup>、安井雄三<sup>1)</sup>、鳥海健太郎<sup>2)</sup>、中村直哉<sup>2)</sup>、寺本 明<sup>3)</sup>、長村義之<sup>4)</sup>

東海大学医学部基礎医学系生体防御学<sup>1)</sup>、東海大学医学部基盤診療学系病理診断学<sup>2)</sup>、日本医科大学脳神経外科学<sup>3)</sup>、国際医療福祉大学病理診断センター<sup>4)</sup>

20. Interleukin-6によるラット顆粒膜細胞LHレセプターmRNA発現増強効果について

今井文晴、中尾光資郎、西村俊夫、岩宗政幸、北原慈和、岸 裕司、峯岸 敬  
群馬大学大学院医学系研究科 産科婦人科学

21. 下垂体腺腫におけるSOX2陽性細胞の意義について

湯之上俊二<sup>1)</sup>、藤尾信吾<sup>1)</sup>、羽生未佳<sup>1)</sup>、有田和徳<sup>1)</sup>、富永 篤<sup>2)</sup>

鹿児島大学医歯学総合研究科 脳神経外科学<sup>1)</sup>、広島大学医歯薬学総合研究科 脳神経外科学<sup>2)</sup>

22. 間脳下垂体疾患データベースによる長期予後調査

横山徹爾<sup>1)</sup>、置村康彦<sup>2)</sup>、千原和夫<sup>3)</sup>

国立保健医療科学院生涯健康研究部<sup>1)</sup>、神戸女子大学<sup>2)</sup>、兵庫県立加古川医療センター<sup>3)</sup>

23. 機能性下垂体腺腫からの非調節性分泌の動態

高野幸路

東京大学 腎臓・内分泌内科

重点課題 (15:20～15:50)

座長 大磯ユタカ

24. 自己免疫性視床下部下垂体炎の診断法の確立に関する研究

—臨床診断法と再分類の試み—

島津 章<sup>1)</sup>、大磯ユタカ<sup>2)</sup>、梶村益久<sup>2)</sup>、高橋 裕<sup>3)</sup>

国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター<sup>1)</sup>、名古屋大学大学院医学系研究科糖尿病内分泌内科<sup>2)</sup>、神戸大学大学院医学研究科内科学講座糖尿病・内分泌内科学部門<sup>3)</sup>

25. Cushing病に対する新規薬物療法の開発

菅原 明<sup>1)</sup>、沖 隆<sup>2)</sup>、片上秀喜<sup>3)</sup>、岩崎泰正<sup>4)</sup>

東北大学大学院医学系研究科 分子内分泌学分野<sup>1)</sup>、浜松医科大学 第2内科<sup>2)</sup>、帝京大学ちば総合医療センター 内科・臨床研究部<sup>3)</sup>、高知大学 臨床医学部門<sup>4)</sup>

**26. 機能性下垂体腺腫の腫瘍発生原因と腫瘍増殖に関与する因子の解析**

高野幸路<sup>1)</sup>、寺本 明<sup>2)</sup>、田原重志<sup>3)</sup>、有田和徳<sup>4)</sup>

東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科学<sup>1)</sup>、東京労災病院<sup>2)</sup>、日本医科大学大学院医学研究科神経病態解析学分野<sup>3)</sup>、鹿児島大学医歯学総合研究科脳神経外科学<sup>4)</sup>

その他 (15:50～15:55)

大磯ユタカ

閉会の辞 (15:55～16:00)

大磯ユタカ

厚生労働省難治性疾患克服研究事業  
間脳下垂体機能障害に関する調査研究班  
平成25年度班会議

プログラム・抄録

日時：平成26年1月10日(金) 10:00～16:00  
場所：TKP東京駅前カンファレンスセンター ホール5A  
住所：〒103-0028 東京都中央区八重洲1-5-20 石塚八重洲ビル 5階  
TEL：03-5227-8761

交通：JR 東京駅八重洲北口より徒歩1分  
東京メトロ丸ノ内線 大手町駅B10出口より徒歩3分  
東京メトロ銀座線 日本橋駅A3出口より徒歩3分

講演時間は各演題10分(うち口演7分、質疑3分)です。

厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班  
班長 大磯ユタカ



開会の辞 (10:00～10:05)

大磯ユタカ

厚生労働省健康局疾患対策課 挨拶 (10:05～10:10)

患者会代表 挨拶 (10:10～10:20)

- ・下垂体患者の会(下垂会) はむろおとや 代表理事  
「患者会から見た新たな難病対策と課題について」
- ・中枢性尿崩症(CDI)の会 大木 里美 副代表  
「夢にまで見た経口剤ミニリンメルトOD錠」

ACTH分泌異常症 I (10:20～10:50)

座長 岩崎 泰正

1. ACTH依存性Cushing症候群におけるCRH・dDAVP・GHRP-2負荷試験の評価

沖 隆<sup>1)</sup>、飯野和美<sup>1)</sup>、蔭山和則<sup>2)</sup>

浜松医科大学第二内科<sup>1)</sup>、弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学<sup>2)</sup>

2. ヒトACTH1-39に対する新規超高感度測定法(ACTH/ICT-EIA)の開発と臨床応用：

一次性あるいは二次性ACTH分泌不全症(ACTHF)の鑑別診断(DDx)

片上秀喜

帝京大学ちば総合医療センター 内科・臨床研究部

3. 副腎性Subclinical Cushing症候群スクリーニングにおける0.5mgデキサメタゾン抑制試験導入の試み

田邊真紀人、明比祐子、柳瀬敏彦

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科

ACTH分泌異常症 II (10:50～11:30)

座長 岩崎 泰正

4. ACTH産生下垂体腺腫(ACTHoma)に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術(eTSS)の治療成績

田原重志

日本医科大学脳神経外科

5. メラノコルチン2受容体欠損マウスにおける下垂体遺伝子発現の検討—第2報—

亀田 啓<sup>1)</sup>、清水 力<sup>2)</sup>

北海道大学病院内科II<sup>1)</sup>、北海道大学病院検査・輸血部<sup>2)</sup>

**6. Cushing病の薬物治療法開発に向けた新たなアプローチの検討**

岩崎泰正、西山 充、田口崇文  
高知大学臨床医学部門

**7. レチノイドX受容体(RXR)アゴニストHX630のPomc遺伝子転写抑制機構の解明ならびに  
in vivo腫瘍増殖抑制効果の検討**

箱田明子<sup>1)</sup>、清水恭子<sup>1)</sup>、小暮直敬<sup>1)</sup>、宇留野晃<sup>2)</sup>、横山 敦<sup>1)</sup>、伊藤 亮<sup>1)</sup>、菅原香織<sup>1)</sup>、  
吉川雄朗<sup>3)</sup>、藤原幾磨<sup>4)</sup>、佐藤郁子<sup>1)</sup>、松田 謙<sup>5)</sup>、工藤正孝<sup>5)</sup>、影近弘之<sup>6)</sup>、岩崎泰正<sup>7)</sup>、  
伊藤貞嘉<sup>5)</sup>、菅原 明<sup>1)</sup>

東北大学大学院医学系研究科分子内分泌学分野<sup>1)</sup>、同 医化学分野<sup>2)</sup>、同 機能薬理学分  
野<sup>3)</sup>、同 小児病態学分野<sup>4)</sup>、同 腎・高血圧・内分泌学分野<sup>5)</sup>、東京医科歯科大学 生体  
材料工学研究所<sup>6)</sup>、高知大学 臨床医学部門<sup>7)</sup>

**バゾプレシン分泌異常症・データベース (11:30～12:00)**

座長 石川 三衛

**8. 心疾患におけるバゾプレシン分泌過剰**

石川三衛、多田祐子、荒尾憲司郎、百村伸一  
自治医科大学附属さいたま医療センター内分泌代謝科、循環器科

**9. 中枢性尿崩症において渴感障害が生命予後に及ぼす影響の検討**

有馬 寛、梶村益久、大磯ユタカ  
名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

**10. 間脳下垂体疾患データベースによる長期予後調査**

横山徹爾<sup>1)</sup>、置村康彦<sup>2)</sup>、千原和夫<sup>3)</sup>  
国立保健医療科学院生涯健康研究部<sup>1)</sup>、神戸女子大学<sup>2)</sup>、兵庫県立加古川医療センター<sup>3)</sup>

**昼休み (12:00～13:00)**

班連絡会議(研究分担者のみ) (12:00～13:00) TKP東京駅前カンファレンスセンター  
カンファレンスルーム5A

**11. 先端巨大症患者の世代別特性について**

藤尾信吾<sup>1)</sup>、羽生未佳<sup>1)</sup>、湯之上俊二<sup>1)</sup>、平野宏文<sup>1)</sup>、時村 洋<sup>1)</sup>、有村 洋<sup>2)</sup>、  
西尾善彦<sup>2)</sup>、有田和徳<sup>1)</sup>

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 脳神経外科学<sup>1)</sup>、鹿児島大学大学院医歯学総合研究  
科 糖尿病・内分泌内科学<sup>2)</sup>

**12. 先端巨大症術後におけるOGTTでのGH底値<0.4 ng/mlを用いた治療効果判定に関する検討**

福田いずみ、肥塚直美、村岡東子、市原淳弘

東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科

**13. 先端巨大症術後のQOLと骨関節症に関する検討**

清水浩一郎、山口秀樹、米川忠人、中里雅光

宮崎大学医学部 神経呼吸内分泌代謝内科

**14. 成人下垂体低下症QOL尺度を用いた本邦先端巨大症のQOL評価**

大月道夫、北村哲宏、玉田大介、田淵優希子、向井康祐、下村伊一郎

大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科

**15. 器質性成長ホルモン分泌不全症(OGHD)に対する成長ホルモン適応基準の検討**

堀川玲子<sup>1)</sup>、横谷 進<sup>2)</sup>

国立成育医療研究センター 内分泌代謝科<sup>1)</sup>、国立成育医療研究センター 生体防御系内  
科部<sup>2)</sup>

**16. 成人GH分泌不全症の合併症としてのNAFLD/NASHの病態と治療意義の解明**

高橋 裕、松本隆作、西沢 衡、山本雅昭、坂東弘教、隅田健太郎、高橋路子、  
福岡秀規、井口元三

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学、神戸大学医学部附属病院 糖尿病内  
分泌内科

**TSH分泌異常症・ゴナドトロピン分泌異常症・機能性下垂体腺腫 (14:00～14:50) 座長 島津 章**

**17. TSH産生腫瘍に対するソマトスタチンアナログ徐放製剤による治療**

島津 章、白井 健、中谷理恵子、植田洋平、垣田真以子、中尾佳奈子、立木美香、  
田上哲也、成瀬光栄  
国立病院機構京都医療センター臨床研究センター、同 内分泌代謝内科

**18. Rev-erb $\alpha$ による下垂体TSH $\beta$ 遺伝子の新たな発現制御機構**

松本俊一、山田正信  
群馬大学大学院医学系研究科病態制御内科学

**19. エストロゲン長期投与により誘発された多ホルモン産生増殖性病変の分子病理学的解析**

竹腰 進<sup>1)</sup>、井野元智恵<sup>2)</sup>、安井雄三<sup>1)</sup>、中村直哉<sup>2)</sup>、長村義之<sup>3)</sup>  
東海大学医学部基礎医学系生体防御学<sup>1)</sup>、東海大学医学部基盤診療学系病理診断学<sup>2)</sup>、  
国際医療福祉大学病理診断センター<sup>3)</sup>

**20. PCOSの病態におけるゴナドトロピン作用**

峯岸 敬  
群馬大学大学院医学系研究科産科婦人科学

**21. 2光子励起法を用いた可視化解析により明らかになった機能性ヒト下垂体腺腫からの自発性顆粒分泌**

高野幸路  
北里大学 内分泌代謝内科

**重点課題 (14:50～15:20)**

**座長 大磯ユタカ**

**22. Cushing病に対する新規薬物療法および診断法の開発**

岩崎泰正<sup>1)</sup>、沖 隆<sup>2)</sup>、菅原 明<sup>3)</sup>  
高知大学臨床医学部門<sup>1)</sup>、浜松医科大学第二内科<sup>2)</sup>、東北大学大学院医学系研究科分子内  
分泌学分野<sup>3)</sup>

**23. GH産生腺腫の全ゲノムメチローム解析で明らかになったこと**

高野幸路<sup>1)</sup>、田原重志<sup>2)</sup>、有田和徳<sup>3)</sup>  
北里大学内分泌代謝内科<sup>1)</sup>、日本医科大学脳神経外科学<sup>2)</sup>、鹿児島大学脳神経外科<sup>3)</sup>

## 24. 自己免疫性下垂体炎の診断法の確立に関する研究

### —抗PIT-1抗体症候群とIgG4関連下垂体炎の病態の解明—

高橋 裕、坂東弘教、山本雅昭、松本隆作、西沢 衡、隅田健太郎、高橋路子、  
福岡秀規、井口元三、島津 章、梶村益久、大磯ユタカ

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学、神戸大学医学部附属病院 糖尿病内  
分泌内科、国立病院機構京都医療センター臨床研究センター、名古屋大学大学院医学系  
研究科 糖尿病・内分泌内科学

連絡事項 (15:20～15:40)

大磯ユタカ

新体制について (15:40～15:50)

島津 章

閉会の辞 ～6年間を振り返って～ (15:50～16:00)

大磯ユタカ



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 2011年度公開セミナー

# 間脳下垂体疾患の病態と 診断・治療に関する

## 最新の研究成果

2011

2011/12.9(金) 18:30~20:00

**入場無料**

名古屋大学医学部 鶴友会館2階 大会議室 / 名古屋市昭和区鶴舞町65

### プログラム

▶18:30~18:50

1

#### オーバービュー

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者  
名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科 教授

大磯 ユタカ

▶18:50~19:10

2

#### 下垂体機能低下症をめぐって —最近の進歩—

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者  
国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター長

島津 章

▶19:10~19:30

3

#### 下垂体の新しい病気の 発見とその意義

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者  
神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 講師

高橋 裕

▶19:30~19:50

4

#### クッシング病に関する 最近の知見

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者  
弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学 教授

須田 俊宏

間脳下垂体機能障害に関する調査研究 研究代表者 大磯ユタカ

事務局：名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65 / TEL:052-744-2181 / FAX:052-744-2212

後援：社団法人 日本内分泌学会



厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業

# 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 2012年度公開セミナー

2012

# 治療に関する最新の研究成果 間脳下垂体疾患の病態と診断

## 1 オーバービュー

[18:30~18:50]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者 大磯 ユタカ  
名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科 教授

## 2 リンパ球性下垂体炎 —診断マーカーの発見—

[18:50~19:10]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 梶村 益久  
名古屋大学医学部附属病院糖尿病・内分泌内科 講師

## 3 わかりやすい クッシング病の話

[19:10~19:30]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 沖 隆  
浜松医科大学第二内科 (内分泌代謝内科) 講師

## 4 GH 分泌異常症 —最近の知見—

[19:30~19:50]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 肥塚 直美  
東京女子医科大学医学部第二内科 教授

日  
時

2012年

12月7日 (金)

18:30~20:00

入場  
無料

日  
時

名古屋大学医学部  
鶴友会館2階 大会議室  
(名古屋市昭和区鶴舞町65)

間脳下垂体機能障害に関する調査研究 研究代表者 大磯ユタカ

事務局: 名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL:052-744-2181 / FAX:052-744-2212

後援: 社団法人 日本内分泌学会



■ 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 ■  
間脳下垂体機能障害に関する調査研究班  
平成25年度公開セミナー

2013

○プログラム

1 開会の辞

[18:00~18:10]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者 | 大磯 ユタカ  
名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科 教授

2 ゴナドトロピン分泌異常症：  
原因と対応

[18:10~18:30]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 | 峯岸 敬  
群馬大学大学院医学系研究科産科婦人科学 教授

3 下垂体ホルモンがないと、  
何が起るのか？

[18:35~18:55]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 | 岩崎 泰正  
高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門 教授

4 成長ホルモン分泌異常症：  
治療の進歩

[19:00~19:20]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究分担者 | 島津 章  
京都医療センター臨床研究センター センター長

5 本研究班の6年間の活動を  
振り返って

[19:25~19:55]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 研究代表者 | 大磯 ユタカ  
名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科 教授

日時 2013年10月18日金 (18:00~20:00)

会場 名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟3階講堂  
[名古屋市昭和区鶴舞町65]

間脳下垂体機能障害に関する調査研究 研究代表者 大磯ユタカ

■事務局:名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学  
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65  
TEL.052-744-2181 / FAX.052-744-2212

後援:一般社団法人 日本内分泌学会

診断・治療に関する最新の研究成果  
間脳下垂体疾患の病態と



## IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

## 平成23年度 研究成果の刊行に関する一覧表

### 雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Suga H, Kadoshima T, Minaguchi M, Ohgushi M, Soen M, Nakano T, Takata N, Wataya T, Muguruma K, Miyoshi H, Yonemura S, Oiso Y, Sasai Y	Self-formation of functional adenohypophysis in three-dimensional culture	Nature	480 (7375)	57-62	2011
Yoshida M, Ogawa K, Mori Y, Oiso Y	Novalis stereotactic radiotherapy improved metastatic pituitary tumor	Intern Med	50(7)	789	2011
Bohara M, Hirano H, Tokimura H, Hanaya R, Yonezawa H, Campos F, Sugiyama K, Sugata S, Arita K	Pineal mixed germ cell tumor with synchronous sellar lesion in the sixth decade: a case report	Brain Tumor Pathology	28	163-166	2011
Fujio S, Tokimura H, Hanaya R, Hirano H, Arita K, Yunoue S, Bohara M, Arimura H, Kinoshita Y, Tominaga A	Gradual declination of IGF-1 over a year after transsphenoidal adenomectomy of GH producing pituitary adenomas	Endocrine Journal	58	1087-1091	2011
Kinoshita Y, Hama S, Tominaga A, Arita K, Sugiyama K, Sugiyama K, Sakoguchi T, Usui S, Kurisu K	Masked hyperprolactinemia: Tumor-derived factors inhibiting prolactin secretion caused by pituitary-stalk damage	Journal of clinical neuroscience	58	1651-1655	2011
Kinoshita Y, Tominaga A, Arita K, Sugiyama K, Hanaya R, Hama S, Sakoguchi T, Usui S, Kurisu K	Post-operative hyponatremia in patients with pituitary adenoma: post-operative management with a uniform treatment protocol	Endocrine Journal	58	373-379	2011
藤尾信吾, 羽生未佳, 湯之上俊二, 平野宏文, 有田和徳, 有村 洋, 木村 崇, 中崎満浩, 鄭 忠和	先端巨大症における体組成の変化	日本内分泌学会雑誌	87 (Suppl)	28-31	2011
富永 篤, 有田和徳, 栗栖 薫, 杉山一彦, 江口国輝, 迫口哲彦, 木下康之	第三脳室前半部頭蓋咽頭腫に対する拡大経蝶形骨洞手術	脳腫瘍の外科	15	162-168	2011

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Morishita Y, Arima H, Hiroi M, Hayashi M, Hagiwara D, Asai N, Ozaki N, Sugimura Y, Nagasaki H, Shiota A, Takahashi M, Oiso Y.	Poly (A) tail length of neurohypophysial hormones is shortened under endoplasmic reticulum stress	Endocrinology	152 (12)	4846-4855	2011
Kakehashi A, Takezawa M, Toyoda F, Kinoshita N, Kanbara C, Yamagami H, Kato N, Ishikawa S, Kawakami M, Kanazawa Y	Aldose reductase inhibitor fidarestat prevents diabetic ocular complications in spontaneously diabetic Torii rats	Open Diabetes J	4	101-107	2011
Aoki A, Muneyuki T, Yoshida M, Munakta H, Ishikawa S, Sugawara H, Kawakami M, Kakei M	Circulating osteocalcin is increased in early-stage diabetes	Diabetes Res Clin Pract	92 (2)	181-186	2011
Tada Y, Nakamura T, Funayama H, Sugawara Y, Ako J, Ishikawa S, Momomura S	Early development of hyponatremia implicates short- and long-term outcomes in ST-elevation acute myocardial infarction	Circ J	75 (8)	1927-1933	2011
大熊志保, 佐々木正美, 村田美保, 浅野智子, 青木 厚, 生駒亜希, 豊島秀男, 川上正舒, 石川三衛	パロキセチンによる薬剤性 SIADH が疑われた高齢者の 1 症例	臨床体液	38	21-25	2011
Saito T, Kimoto M, Nakai S, Ikoma A, Toyoshima H, Kawakami M, Nokubi M, Ishikawa S	Ectopic ACTH syndrome associated with large cell neuroendocrine carcinoma of the thymus	Intern Med	50 (14)	1471-1475	2011
岩崎泰正	先端巨大症患者治療後の治癒判定と長期予後 特集：先端巨大症診療のUp-to-date	内分泌・糖尿病・代謝内科	33	235-239	2011
岩崎泰正	非機能性下垂体腺腫 内分泌腫瘍－基礎・臨床研究のアップデート－	日本臨牀	69 (Suppl2)	281-285	2011
岩崎泰正	尿崩症 特集「バソプレシンと受容体拮抗薬の臨床応用」	Fluid Management Lunnaisance	1	22-25	2011
岩崎泰正	中枢性尿崩症の治療 特集：下垂体疾患の診断と治療－現状と課題－	ホルモンと臨床	58	789-794	2011
岩崎泰正	サブクリニカルクッシング症候群の病態と診断	最新医学	66	1211-1216	2011

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tsukamoto N, Otsuka F, Miyoshi T, Inagaki K, Nakamura E, Suzuki J, Ogura T, Iwasaki Y, Makino H	Activities of bone morphogenetic proteins in prolactin regulation by somatostatin analogs in rat pituitary GH3 cells	Mol Cell Endocrinol	332	163-169	2011
Nakayama S, Nishiyama M, Iwasaki Y, Shinahara M, Okada Y, Tsuda M, Okazaki M, Tsugita M, Taguchi T, Makino S, Stenzel-Poore MP, Hashimoto K, Terada Y	Corticotropin-releasing hormone (CRH) transgenic mice display hyperphagia with increased Agouti-related protein mRNA in the hypothalamic arcuate nucleus	Endocr J	58	279-286	2011
Tsukamoto N, Otsuka F, Miyoshi T, Inagaki K, Nakamura E, Terasaka T, Takeda M, Ogura T, Iwasaki Y, et al	Functional interaction of bone morphogenetic protein and growth hormone releasing peptide in adrenocorticotropin regulation by corticotrope cells	Mol Cell Endocrinol	344	41-50	2011
Otsuka F, Tsukamoto N, Miyoshi T, Iwasaki Y, Makino H	BMP action in the pituitary: Its possible role in modulating somatostatin sensitivity in pituitary tumor cells	Mol Cell Endocrinol	349 (2)	105-110	2011
Li P, Zhao Y, Wu X, Xia M, Fang M, Iwasaki Y, Sha J, Chen Q, Xu Y, Shen A	Interferon gamma (IFN- $\gamma$ ) disrupts energy expenditure and metabolic homeostasis by suppressing SIRT1 transcription	Nucleic Acids Res	Nov 7	Epub ahead of print	2011
Wada Y, Hamamoto Y, Nakamura Y, Honjo S, Kawasaki Y, Ikeda H, Takahashi J, Yuba Y, Shimatsu A, Koshiyama H.	Lymphocytic panhypophysitis: its clinical features of Japanese cases	Japanese Clinical Medicine	2	15-20	2011
Shimatsu A, Tai S, Tanaka T, Fujieda K, Teramoto A, Chihara K.	Clinical characteristics of Japanese adults with growth hormone deficiency: A HypoCCS database study	Endocrine Journal	58 (5)	325-333	2011
Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Beniko M, Yamamoto H, Moriyama K, Naruse M.	Aberrant expression of thyroid hormone receptor $\beta$ isoform may cause inappropriate secretion of TSH in a TSH-secreting pituitary adenoma.	J Clin Endocrinol Metab	96 (6)	E948-E952	2011
Koizumi M, Usui T, Yamada S, Fujisawa I, Tsuru T, Nanba K, Hagiwara H, Kimura T, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Shimatsu A.	Successful treatment of Cushing's disease caused by ectopic intracavernous microadenoma.	Pituitary	14 (3)	295-298	2011